

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第47週 (11/18-11/24) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	47週	46週	45週	44週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県	
		注意報	11/18-11/24	11/11-11/17	11/4-11/10	10/28-11/3		11/11-11/17
			47週	46週	45週	44週		46週
小児科	RSウイルス感染症		0 0.00	2 0.11	1 0.06	1 0.06	30 0.22	
	咽頭結膜熱		6 0.33	6 0.33	5 0.28	7 0.39	47 0.35	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	49 2.72	46 2.56	39 2.17	28 1.56	489 3.62	
	感染性胃腸炎		67 3.72	60 3.33	50 2.78	42 2.33	455 3.37	
	水痘		2 0.11	9 0.50	2 0.11	11 0.61	61 0.45	
	手足口病		16 0.89	29 1.61	23 1.28	29 1.61	208 1.54	
	伝染性紅斑		5 0.28	5 0.28	5 0.28	9 0.50	54 0.40	
	突発性発しん		9 0.50	5 0.28	10 0.56	6 0.33	46 0.34	
	ヘルパンギーナ		1 0.06	3 0.17	1 0.06	10 0.56	20 0.15	
	流行性耳下腺炎		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	10 0.07	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓	48 1.71	85 3.04	18 0.64	27 0.96	427 1.99	
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性角結膜炎		1 0.20	2 0.40	0 0.00	3 0.60	18 0.51	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	8 0.89	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(6件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査等	結核	女性	80歳代	IGRA検査等
結核	女性	50歳代	IGRA検査	腸管出血性大腸菌感染症	男性	30歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認
結核	女性	50歳代	病原体等の検出等	急性脳炎	男性	70歳代	中枢神経症状及び先行感染症

*第47週は、結核4件(146)、腸管出血性大腸菌感染症1件(18)、急性脳炎1件(14)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

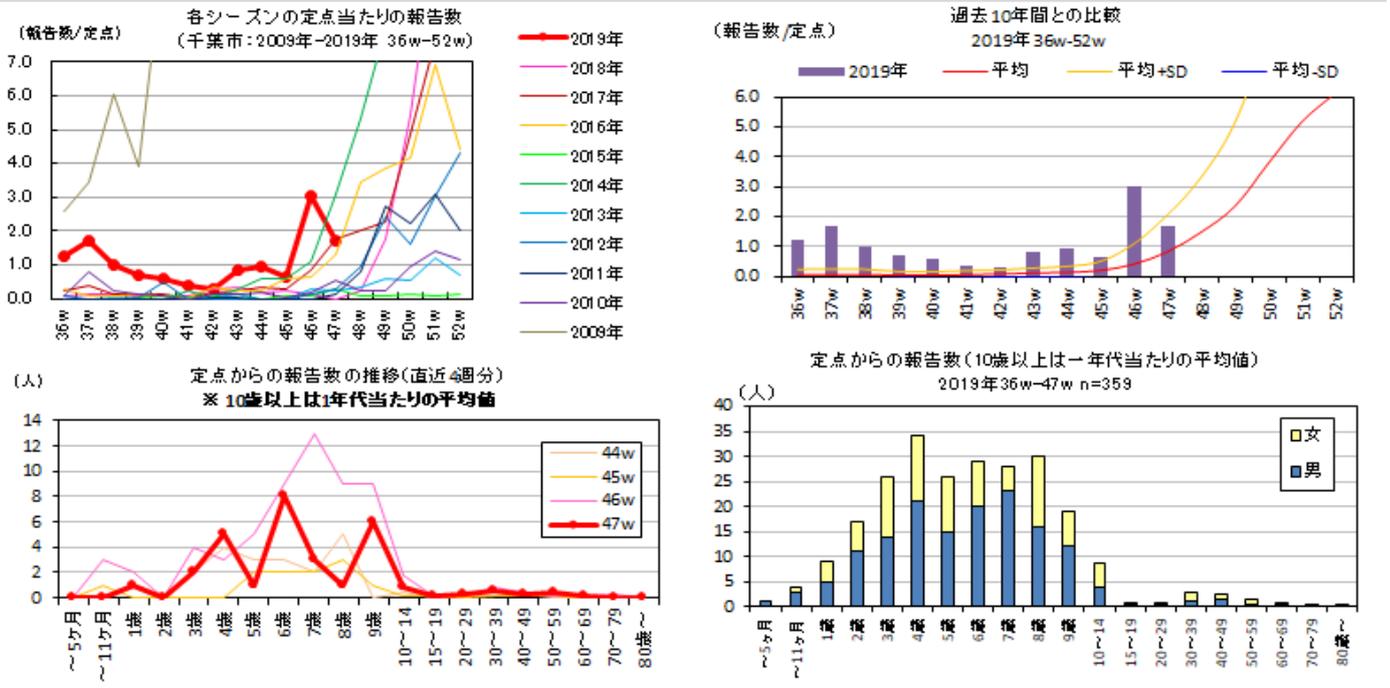
定点当たり報告数 第47週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.72となった。過去10年の同時期と比べると多め。
<インフルエンザ> 前週より減少し1.71となったが、過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

<インフルエンザ>

全国レベルの第46週の定点当たりの報告数は1.84となり、過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除いて最多となっています。都道府県別では北海道、鹿児島県、秋田県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は1.99で、ほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第47週は前週より減少し1.71となりましたが、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、美浜区(4.50/定点)で最多で、同区では比較的幅広い年齢階級で発生報告があり、6歳、9歳及び30歳代で多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第47週までの累積報告数は359件で、性別では男性が56.3%(202名)、女性が43.7%(157名)となっており、年齢階級別では4歳(9.47%:34名)、8歳(8.36%:30名)、6歳(8.08%:29名)の順で多く、20歳未満が全体の75.5%、10歳未満が全体の62.1%となっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第46週の定点当たりの報告数は2.58となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では佐賀県、山形県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は3.62で、全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第47週は前週より増加し2.72となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、若葉区(4.50/定点)で最多で、同区の8歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第47週までの累積報告数は366件で、性別では男性が54.1%(198名)、女性が45.9%(168名)となっており、年齢階級別では6歳(15.8%:58名)、7歳(13.4%:49名)、5歳(12.8%:47名)の順で多くなっています。

